

～みんなちがって みんないい (その7)～

今回は自閉スペクトラム症 (ASD) についてお話しします。

自閉スペクトラム症の中核をなす障がいは、「社会性の障害」「社会的コミュニケーションの障害」「常同行動と限定的な興味」の3つです。

以前は、その特性によって「高機能自閉症」や「アスペルガー症候群」、「広汎性発達障害」、など大きく5つに分類されていましたが、2013年に新版の「精神障害の診断と統計マニュアル (アメリカ精神医学会: 通称 DSM-5) にあわせて、日本でも総称が一括化され、「自閉スペクトラム症 (ASD; Autism Spectrum Disorder)」と呼ぶことになりました。

スペクトラムとは、「連続体」という考え方で、言葉や知的な遅れを重複している典型的な「自閉症」から、知能の遅れをどんどん軽くしていき、ほとんど知的な遅れがなくなった状態が「高機能自閉症」であり、そこから言葉の遅れを軽くしていき、言葉によるコミュニケーションにほとんど問題のない状態が「アスペルガー症候群」であると考ええると分かりやすいと思います。

特性の程度や違いによって表出する個人の特性の差異は大きいけれど、根幹にあるものは同じであるという考え方になります。実は「連続体」という考え方は、SLD や ADHD など他の特性にも同じことが言えます。

自閉スペクトラム症は中枢神経系に、何らかの障がいがあるためにおこると考えられて、SLD や ADHD 同様、はっきりした原因は特定されていません。自閉スペクトラム症も生まれつきの障がいであり、他の障がい同様、現代の医学では薬や外科的治療で完治することはまだできませんが、服薬により状況が改善する場合があります。

自閉スペクトラム症であることを公言している有名人には、米津玄師さんや電気自動車企業テスラの共同創設者であり、宇宙開発企業スペースXの創始者としても知られる実業家のイーロン・マスク氏など著名人がたくさんいます。マスク氏は昨年、Twitter を買収し社名をXと変更したことで話題になりました。

米津さんは「社会性」の面で特性があり、メディアに露出することや、多くの方と関わりを持つことが苦手で、自分でコントロールできる範疇で活

動されています。逆にマスク氏は科学者としても経営者としても抜きでた能力を持ち、経営についても先見の明がありますが、言動はとても目立ち、しばしば物議をかもします。

他にもイギリスのテレビ番組「ブリテンズ ゴッド タレント」で一躍有名になったオペラ歌手のスーザン・ボイルさんも自閉スペクトラム症とSLDの両方の障害があると公言しています。彼女はコミュニケーションを取ることに困難があり、パニックになりそうになると、その場を離れて落ち着くことが、人と付き合っていく上での対処法だそうです。SLDのため、勉強ができないと本人も周りからも思われていましたが、近年、知能検査を受けたところ、通常以上のIQがあったことが公表されています。周りからは「勉強ができない」「変わっている」といじめられることが多く、50代まで不遇の境遇で暮らしてきましたが、母の勧めで出演した番組で人生は一変しました。何よりも母親が喜んだと聞いています。

このように、あふれる才能を持ちながら、自閉スペクトラム症の特性でもある「社会的コミュニケーション能力」の問題で、困り感を抱えている人は決して少なくありません。普通に会話ができるため、「特性に気付いてもらえない」「大人になればどうにかなる」と都合よく周りの大人が考えてしまっていることが多いのです。

また、自閉スペクトラム症やADHD、SLDの特性があると、社会性を強く求められる小学校中学年くらいから、登校を渋り始める傾向が見られることがあります。そこに学習の困難さが加われば尚更です。

先日、文部科学省は2023年の「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」を公表しました。報告書によると、令和5年度の全国の小中学校の不登校者数は約34万6千人に上り、前年度から5万人ほど増加しています。不登校の原因として皆さんは「いじめ」が一番の原因と思われるかも知れませんが、「いじめ」は全体の2%弱で、最も多いのは「無気力・不安・生活リズム不調」です。この3つの原因だけで78%に上ります、次いで「学習不振」15%、「友人関係」13%と続きます。確かに「いじめ」の認知件数も毎年増加していますが、不登校の原因としては、社会性の未熟さや学力不振などが大半を占めていて、神経発達症に起因する例も少なくないのです。